

第54回ブレイクスルー研究会議事録

「AI搭載のXperia Helloの開発と市場創造」

1. 日時：2018年5月21日（月）18時から19時50分
2. 場所：政策研究大学院大学4F研究会室
3. 参加者：17名
4. 講師：倉田宜典氏（ソニーモバイルコミュニケーションズ（株）
スマートプロダクツ部門エージェント企画室 室長）
5. 内容：（要約）
 - 1) 自己紹介
 - ・筑波大学／ソニー入社／AIBO・音声認識・自然言語処理／リモートブレイン／ソニーモバイル（現在）
 - 2) 商品開発
 - ・初期：人工知能タイプ（ビッグデータ系、自動実行系、UI近代系）
 - ・発展期：SAT（ソニー・エージェント・テクノロジー）技術群の総称
センサー→人工知能→判断→出力のそれぞれに関して適切な技術を提供する
 - 3) 「Xperia Hello」の紹介（製品を持込んで説明）
 - *Xperia Hello!はコミュニケーションロボット：スマートスピーカーは基本的にはこちらから話しかけてコントロールするという意味合いが強い
のに対して、Hello!はロボットなので近づけば話しかけてくれる
 - ・特色：①形態、大きさ、デザイン等に顧客目線で工夫、②音声出力＋タッチパネルディスプレイ、③コミュニケーション（人と人を繋ぐ）、④インフォテインメント（あなたに合った情報を提供）⑤You tube 再生機能やTVコントロール機能などが追加される。
 - ・機能詳細説明：
 - ①コミュニケーション：メッセージ／電話／伝言等テキストラインで使える。
HELLOを仲介して伝言でき、顔を識別して話しかける
 - ②インフォテインメント：ニュース、天気予報、交通情報等相手の顔を見て伝える。
 - ③見守り：LINE連動、360度映像、家族の様子が見える。
(参考：セコムと連携)
 - ④You tubeの再生機能：好みを認識して、教える。
 - ⑤TVコントロール：赤外線ではなくチャンネル切り替え可能。
 - ⑥ラジオ再生機能：Redikoのアプリから聞ける
 - ⑦音声認識能に関し：「ハイ！エクスペリア」から「ねえハロー」に変更した。
高齢者はなかなかエクスペリアの発音が出来ないため。

・ 技術説明 :

①センシング：4つの人感センサー内蔵。

②マイク：7本のマイク（方向認識）

③カメラ：340度上下

インテリジェント機能：画像認識技術応用の顔識別エンジン

④音声認識技術で音の認識、応答生成技術は統合型アーキテクチャー

⑤AIスピーカーにはない特徴：

・能動的に話しかける（但し余計なことは言わない）、

・ 目指す領域 :

第1フェーズ：家庭の一員、第2フェーズ：B to B、B to C（ベンダーと組と組む）例：受付サーボス、有料老人ホーム、セコム等。

・ 価格：16万円（リース契約も検討）

*参考（追加）

①（日経2018-5-26 プラス1掲載）

「一諸にいたい家庭向けロボ」で、1位 a i b o：ソニー（犬型ロボット）、2位エクスペリアハロー：ソニーモバイルコミュニケーションズ（ロボット然としていない表情豊か等）、3位ロボホン；シャープ。

②日経産業2018-6-1 16面

AIスピーカー：アマゾン「アレクサ」シェア88%→52%、
グーグル「グーグルデュプレックス」9%→36%、（グーグル猛追）
アップル「S i r iシリ」

（文責：主査 旭岡叡峻）

*は検索説明